

奈弓連だより

通巻 182号

平成 29 年 4 月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 土谷尚敬 野尻賢司

会長メッセージ

円滑な運営のために、会員の皆様のご協力をお願いします



奈良県弓道連盟 会長 西中 正

平成 29 年度が始まりました。今年度も会員の皆様の協力のもと、奈良県弓道連盟の諸行事を円滑に運営していきたく思います。去る 4 月 9 日の評議員会で 28 年度の行事報告、決算報告、29 年度の行事計画、予算案が承認されました。最も、話題になったのが、平成 30 年度から実施される公認資格認定制度のために、今年度県内で行なう地方委員資格認定講習会についてでした。

この講習会の実施の日程は 29 年度年間行事計画に既に組まれています。講師は資格検定委員

(会長、当該年度の地区指導者講習会受講者、地連会長が指名した人) が務めます。講習内容については、29 年度近畿地区指導者講習会終了後に事務局、受講者、指導部で決めていきます。

受講対象者は体協公認弓道指導者資格保有者(平成 30 年 4 月 1 日現在満 70 歳以上の者は免除する)です。講習会がスムーズに運営されるために資料集を参考に勉強しておいてください。

なお、講義のほかに課題論文(審査委員問題、講師問題)の提出、審判委員認定試験の学科問題試験があります。

この公認資格認定制度の下では、審査委員、講師については称号以上が、また連合会、地連が主催する行事の審判委員は五段以上で担当できるようになります。有効期限は平成 33 年 3 月 31 日です。

本年度も、数多くの地連行事があります。4 月 16 日の県総合選手権大会では、国体強化選手、全日本遠的選手権選手、都道府県対抗弓道大会出場選手が選出されました。また、全国勤労者弓道大会の選手も選ばれており活躍が期待されます。皆様の応援の程、よろしくお願ひします。

第 1 回審査講習会開催 最後まで心して行射することが大切

平成 29 年 4 月 9 日(日) 橿原公苑弓道に於いて、中央審査受審者を対象に、平成 29 年度第 1 回審査講習会が行われました。参加者は 37 名でした。

主任講師は吉本清信先生。講師は須田三郎先生、竹村邦夫先生。補助講師は新司正人先生、西中正先生。受講者はそれぞれ、各自の課題に取り組みました。

開会式で西中会長より、審査申込書に不備が多く、男女の○や弓歴の未記入がある。面接の際にも注意を受けることになるので、漏れの無いよう、正しく記入する。また、受審料などはお釣りのないよう用意をする。現金書留を受け取っても、いつ、どこで受ける審査なのか記載がなく分からないものもある。事務局がスムーズに処理出来るよう、常識ある対応して欲しいと苦言をいただきました。

また、吉本名誉会長からは、平成 30 年度から公認資格認定制度が施行され、今年度は講習が始まること。射に関して、個人的には乙矢が大切だと思う。最後まで心して行射するように。この講習会で何かヒントを得て帰って下さいとお話がありました。

射礼研修では八段、七段、教士の受審予定者が一つの射礼。錬士受審予定者が持的射礼。六段受審予定者が一手行射をそれぞれ行いました。



持的射礼の研修をする錬士受審予定者達

午後の射技研修の前に、吉本名誉会長から、午前射礼研修について注意点を述べられました。

- 正しい着装。
- 息合い(呼吸)をともなった動作をし、協調する。
- 入場の礼、揖は日の丸に体を正対する。
- 肌脱ぎでの袖裁きは的方向に意識を持つ。
- 肌入れでは、手の甲を見せない。
- 襷をかけたなら肘を見せない。
- 射礼で射位から後ろに下がる際、1 歩目は小さく。



射技研修を受ける七段受審予定者

- 歩行中はつま先を上げない。
- 弓を立て、立ち上がる時は弓を捧げ持つ。
- 人を惹きつける打起しを行う。
- 落が引き終えて下がりきってから、次の立は射位に進む。

また、須田先生からは教本に則った弓道を学ぶこと、竹村先生からは眼力をつけるけるとのお言葉をいただきました。

閉会式では西中会長より、今回つかんだヒントを活かして挑戦してください。改正された問答集はよく読んでおくようにとの激励・挨拶がありました。

(指導部 松村由喜子)

奈良県定期地連審査を3月19、20日に開催

3月19日に橿原公苑弓道場と奈良市弓道場において3月20日に橿原公苑弓道場において、奈良県定期地連審査が開催されました。それぞれの審査結果は次の通りです。

第267回定期審査 3月19日 橿原公苑弓道場

級位 受審者198名 欠席8名 合格190名
(1級88名、2級78名、3級24名、現級0名)
合格率100%

第268回定期審査 3月19日 奈良市弓道場

級位 受審者162名 欠席4名 合格158名
(1級130名、2級28名、現級0名)
合格率100%

第269回定期審査 3月20日 橿原公苑弓道場

初段 受審者86名 欠席1名 合格73名
合格率85.9%
二段 受審者41名 欠席2名 合格20名
合格率51.3%
三段 受審者18名 欠席0名 合格6名
合格率33.3%
四段 受審者22名 欠席1名 合格5名
合格率23.8%

今回の審査を終えて、体配等の所作がきちりとしていないために合格点が得られなかった方々が目に

昇格、昇段おめでとうございます

徳島県立中央武道館弓道場で開催された【四国地区】臨時中央審査会において次の皆さんが昇格、昇段されました。

3月19日 六段合格者 大西 洋亮 (郡山)
18日 錬士合格者 高倉 美香 (奈良)

橿原公苑弓道場で3月26日に開催された近畿連合審査会において次の皆さんが五段に昇段されました。

上所 廣吉 (橿原)、小西 徳子 (橿原)、
中山 誠一郎 (奈良)、栗栖 久夫 (奈良)

橿原公苑弓道場で3月20日に開催された奈良県定期地連審査会において次の皆さんが四段に昇段されました。

山下 常子 (奈良)、栄島 なるみ (奈良)、
斎藤 文男 (郡山)、猪原 旬子 (奈良)、
辻本 元威 (香芝)

おめでとうございます。(事務局)

つきました。特に高校生の中に該当者が多くいたと思います。講習会等に積極的に参加し、次回までに体配等の所作をしっかりと学んでいただきたいと思います。

(審査部 平木一史)

大和郡山お城まつり弓道大会

参段以下の部:岩下 晴奈選手(天理大学)

四段以上の部:松井 優宜選手(郡山) が1位

4月2日(日)花冷えの中、やまと郡山城ホール弓道場において、「平成29年度お城まつり弓道大会」が開催されました。

はじめに大和郡山市弓道協会須田会長より、「本大会は採点制の大会であり、日頃の稽古の成果を採点審判員の先生方に見ていただける貴重な機会として取り組んでもらいたい」との開会挨拶があり、つづいて採点審判員を務められる先生方(西中先生、西浦先生、阪中先生、吉本清己先生)の紹介がありました。

開会式終了後、西中先生、阪中先生、吉本先生による一つの射礼の模範演武が行われ、つづいて参段以下の部51名、四段以上の部39名により、一次予選がスタートしました。二次予選、決勝と進むにつれて僅差での熱戦となり、とりわけ決勝戦は深い会での射が多く、見ごたえのある大会となりました。



審判員の前で、日頃の稽古の成果を披露する選手達

決勝進出者による最終競技結果は下記の通りです。

【参段以下の部】

1位：岩下 晴奈	(天理大学)	311点
2位：中山 巧	(郡山)	303点
3位：中尾 信次郎	(天理大学)	298点

【四段以上の部】

1位：松井 優宜	(郡山)	304点
2位：安住 奈津子	(郡山)	300点
3位：松澤 和実	(奈良)	299点



後列 参段以下の部で入賞の中山、岩下、中尾の各選手
前列 四段以上の部で入賞の安住、松井、松澤の各選手

閉会式では西中採点審判員長より、以下の通りの講評がありました。

- 決勝戦では深い会の人が多く、良かったと思う。
 - 入退場に際して、国旗に正対することが出来ない人が何人も見受けられたので注意してほしい。
 - 縦横十文字を崩さないように心掛けてほしい。
- 今年度も多数の皆様に参加をいただき有難うございました。又本年から県連よりの後援をいただき感謝しております。本大会での採点結果を、これからの修練に活かされることを願っております。

(郡山 田中 栄里子)

**奈良県中学校弓道選手権大会
学校対抗戦: 昨年度に引き続き榎原中が優勝**

今年度最後の試合、平成28年度奈良県中学校弓道選手権大会が3月18日(土)に榎原公苑弓道場で開催されました。個人戦は各人4射とし、2中以上の者が予選通過しました。予選通過者は再度4射し、計8射的中数で順位を決めました。午後からは学校対抗戦を行い、各校4名を1チームとしてトーナメント戦を行いました。参加人数は男子63名、女子114名でした。結果は次の通りです。

<個人戦>

女子

優勝 植村 芽瑠(榎原)
2位 今西 柚季(榎原)
3位 上竹 菜々美(榎原)

男子

優勝 田上 柊悟(香芝)
2位 清水 雄登(大成)
3位 森口 泰成(榎原)



個人戦入賞者 左から田上、清水、森口、植村、今西、上竹の各選手

<学校対抗戦>

優勝 榎原中学校
2位 香芝中学校
3位 大成中学校



学校対抗戦の入賞者 前列榎原中 後列左香芝中 後列右大成中

(中体連 中前芳一)

称号者研修会に参加して 「練習ではなく研究をしてください」との助言

2月25日（土）と26日（日）の両日、県連主催の称号者研修会に参加させていただく機会に恵まれました。講師は吉本清信範士九段、川村光良範士八段、本多政和範士八段の3名（受講生は約40名）という、非常に贅沢で内容の濃い研修会でした。

先生方のお話の中に、「練習ではなく研究をしてください」というお言葉がありました。その言葉が頭の中で繰り返される中で模範演武を拝見した際、先生方は3名ともそれぞれが「研究者」であり、長年試行錯誤し互いに学び合いながら研究されてきた成果と、弓道以外の世界で培われた人間力のようなものが、体配や射技に結集されているような印象を受けました。また、共に研究していく仲間が大切であり、仲間がいたからこそ自分がここまで来られたということも強調されていました。今回ご指導をいただいた3名の先生方は、鈴木三成先生のご縁で長年一緒に切磋琢磨される関係となり、度重なる研鑽を経て現在までその関係が続いておられるとのことでした。全日本弓道選手権大会でも、お互いを意識する良い関係であったそうです。

さて、大切なのは『今回の研修をどう生かすか』ですが、私は今まで「教わる」ばかりで、「研究」といった視点では弓道を捉えられていませんでした。誰かが成功したそのあとを追いかけてばかりいたような気

がします。けれども、今回の研修を通じて「骨格も年齢も職業（常日頃の身体の使い方）も異なる中で自分を活かせる技を模索し、自分が目指す弓道の実現に向けて研究し続けることが、これからの修練の方向だ」と思うようになりました。今後は少しずつ「研究者」として弓道と関わってみたいと思います。試行錯誤を繰り返す中で、誤った方向に進み、迷い込んでしまうのはもちろん怖いです。でも講師の先生方は「それも経験や知識になって良かった」と仰っていました。その言葉と、いつもそばで見守ってくださる恩師、それから一緒に稽古してくれる仲間を信じて、明るく楽しく前向きに頑張ろうと思います。

（郡山 大西洋亮）

〈大和郡山市弓道協会だより4月号から転載させていただきました〉

編 | 集 | 後 | 記

中央審査、地連審査、連合審査と審査会が続きましたが、地連審査では級位では348名、段位では104名の方々が合格されました。おめでとうございます。

昨年4月に奈弓連だよりの編集担当の役を引き受け1年が経ちました。本紙が弓道連盟と会員の皆さんとのコミュニケーションの場としての役割を果たせるよう、今年度も努力します。よろしくお祈いします。

編集担当 野尻賢司